

# さ ざ ん か

第82号、2008年8月

今年の夏は、オリンピック、高校野球とスポーツ観戦に興じた夏でした。水泳の北島選手は見事でした。国中の期待を背負いながらの金メダルは、通常のコメダルよりもずいぶん重みがあるように思います。凡人は入学試験などであがらずに日頃の実力を出すだけでも大変なのに、ましてや、あの一発勝負の大舞台でと考えると改めて彼の凄さが分かります。それにしても北京オリンピックの開幕式におけるCG使用や女の子の「口ぱく」には驚きましたね。彼我の国民性の違いをまざまざと感じざるを得ません。名より実、実より名。どちらも大事なのでしょうけど。そこまではか！という思いは残りました。

9月から神経内科医が一人、10月から脳神経外科医が一人居なくなります。脳神経外科は常勤医がいなくなり、皆様にご迷惑をおかけすることになりそうです。週2回の外来診療は継続します。日本全国、地方は経済のみでなく医療も疲弊しています。モノは地域で手に入らなくても通信販売とかインターネットとかで何とかありますが、医療はそうはいきません。何とか地域医療を充実させるために頑張っていきたいと思っておりますが、肝心の医師がいなくてはそれも空回りです。医師確保に関しては、あと数年は厳しい状況が続くのではないかと考えておりますが、果たしてその間に地域医療の完全崩壊に至らないかどうか、果たして数年も待てる体力があるかどうか。総務省の公立病院ガイドラインをクリアできるかどうか。このまま病院経営はうまくいくだろうか、赤字は解消できるだろうかと心配だらけではあります。

でも。今日は今日の風に吹かれましょう。そして明日は明日の風が吹くだろう、という無我(?)あるいはヤケクソの境地で過ごしていくしかないだろうというわけの分からない覚悟だけは立派にできているのです。

---

俳句

西屋敷喜美子

猛暑日の 続きで食の 細くなり

耳鳴りを 消してくるるや 田の蛙

流行の 黒の日傘で 美容院

## 病院からのお知らせ

- \* 神経内科部長 竹之内先生が8月で退職されました。当分、補充はありませんので神経内科外来は火曜日が鹿児島大学からの応援医師、それ以外は高橋先生の担当になります。
- \* 毎週第3金曜日の血液外来は前院長の野村紘一郎先生の担当になります。
- \* 4月から研修医が当院で1年間の研修を開始しております。米澤英理先生です。よろしくお願いいたします。
- \* 4月から脳神経外科の外来担当がかわっています。詳しくは脳神経外科外来でお尋ねください。常勤2人体制が常勤1人体制に変わったことによるものです。鹿児島大学病院から応援にきていただいています。火曜日と金曜日です。
- \* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- \* MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながることがあるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- \* MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- \* マルチスライスCTで、心臓冠動脈造影ができます。心臓カテーテル検査の代わりにもなることもあります。遠方まで心臓カテーテル検査にいられる方は是非ご検討下さい。その他全身の血管撮影に威力を発揮します。人は血管と共に老いる、といいます。MR血管撮影とあわせて利用できます。ご相談は各科の主治医にどうぞ。心臓の冠動脈造影のときは1泊2日の予定でお考え下さい。下肢の血管造影もCT、MRIを利用して可能です。
- \* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

## からす 時吉政江

入院となり部屋でゴロゴロして病院の外に出て見ることにした。カラスがオイチニ、オイチニと歩いて三羽で親子づれだろうか。そうだ、カラスに聞いてみることにしました。

何を聞かれますか。カラスさんよ。木のとっぺん、四季の流れにもいつだってカアカアと鳴いている。木の高いてっぺんでなにを眺めていらっしゃるのかねー高い所からさまざまな風景みえますよ。僕らはいつも高い木のとっぺんが好きでサ。陸ではガソリンが高くなった。それやれ、なにもかも高くなった

陸のカラスさんよ、生きるってなに食べているの そりゃへびだのカエルだの食べているさ それで陸のカラスは十分サ カラスさんよ、海のカラスつまり渡りカラスたちは漁師さんたちの魚をおすそ分けして貰って そりゃーうまいものだろうよ 新鮮な魚を岩でたたきつけて、ぐーと呑みこむ 同じカラスでもサ 黒いカラスダケドネ、夜明けを待って朝の3時とか霧がたちこめた漁に日本列島の船が2万艘とやら。漁師達も高くなったガソリンで魚が取れないって国にストライキしているよ カラスさんー そりゃー 姥ちゃん金魚みたいな魚は網にひっかからないで抜けるからネ

大きな魚が少なくなって 漁師さんたちの船が多くなっているから 日本海も金魚みたいな魚が大きくなるには幾年も待ってこそ網にかかるのだろうよ 思いどおりにならないからって国のせいにするのもなあ。 まあよく考えてみると人間さまはもっと欲しい、もっと欲しいと 新しくめずらしものとおいかけてかってしまう。

ローンで振り回されてガソリンのせいにする カラスさんよ どうしてカラスさん黒だろうね 僕らの本能でサ 太陽の夏の猛暑にも負けないし 冬の雪にも負けないように僕らはそれでカラスっていうだよ

雨の水でブタ肉のミンチでころっけをつくるってみたい 思ったとおりにのれんといえどば幾つもの時代にもそろばんで 願いましてはー1円なり、2円なりともうけに思ったどおりになったり、ならなかったり

平成の時代となると はあーという幾千万も思いどおりにならない人間さま 寂しいものよ 猛暑のなか小さな蟻たちは花からあまいもの おすそわけしてもらって 冬のためにおすそわけから おすそわけで働いているのにねえー

勝負といえば高校野球 猛暑のほんとうに青春とはいえ 親御さんにしてみればかわいい我が子 涙と汗と勝利と夏 鹿兒島実業がホームラン やったあー 甲子園4年ぶりアナウンサーの鹿兒島弁もまた美しく 猛暑がどっかにふきとばされた 猛暑はやだネー

「きぼう」より地球の画像とどきたり 飢餓も戦争も見えぬ青き星

## 世の中モンスターだらけ カラーマン（とその女）

世にモンスターが出現してどれくらいたつのだろう。（そうねえ、ゴジラが 1954 年、モスラが 1961 年みたいだね。それぞれ昭和 29 年と昭和 36 年。随分古い時代だわ。東京オリンピックが 1964 年だからそれよりも前ね。大体、今の若い人達は東京でオリンピックが開催されたことも知らないのじゃないかしら。まっ、もちろん、あたしも知らないけど！）

いまから 44 年も前のことである。実に半世紀近くなる。その 44 年前に開通したのが東海道新幹線だ。あと 3 年後にやっと九州新幹線が開通する予定だけど、九州まで届くのに随分時間がかかったものだと思う。やっぱりその頃から地方軽視のスタンスは変わってないのだろうな。（でも、福岡へは昭和 50 年にはもう山陽新幹線はきているから同じ地方でも格差があるんだわ。その時、勢いで鹿児島まで通せば良かったのにね。人生には勢いで生きる時期も必要なんだわ。あの時、ちょっとした勢いと勇気があれば……。あなたと私は……）

古き時代の架空のゴジラやモスラは人々の想像力を逞しくさせ、銀幕の上でわれわれを楽しませてくれたけれど、最近、世に跋扈するようになったモンスターたちにはみんな手を焼いている。

モンスターペアレントやモンスターペイシエント。まず最初にあわられた怪物は、学校現場で出現したモンスターペアレントである。「自分の子供を劇の主演にしろ」「自分の日程に合わないので学校行事の日にちを変えてくれ」「風邪で休んだので、給食を自宅まで届けてくれ、あるいはその分の給食費を返還しろ」「子供の成績が悪いのは担任の先生の教え方が悪いからだ。担任を変えろ」「うちの子と合わない子がいるからクラスを変えてくれ」などなど。（ほ、本当？て言いたくなるけど、本当らしいのよねえ。これが。いったいどうなってるのかしら。）

一説では、80 年代に校内暴力で暴れまくった時代の生徒たちが、年を取って今度は自分達がオトナになり親になり、モンスターに変身したらしいとも言われている。

（じゃあ、その頃から、その子たちは校舎の窓ガラス割ったり、先生に暴力を振るったりしてたわけだから、そもそもが学校に対する尊敬とか畏敬の念はあまりないってことね。困ったものだわ。その当時、ピシッとケリをつけなかったつけが回ってきたのかしら。ものごとにはそれなりのケジメが必要なんだわ。ケジメが。なんでもかんでも過去は水に流すべきじゃあないのよ！）

その辺の本当のところは分からないけど、何も無いところから、突然モンスターペアレントがあらわれたわけではなく、その背景はたぶんあったのだろうね。

それにしても、子供達の教育のことで心配していたら、いつの間にかその子供たちの親どもの対策に追われるとは、学校の先生も大変である。心労で自殺した先生もいるようだ。哀れな。そもそも、子供の成績が悪くて、それを苦に自殺した親の話なんてのは聞いたことがないのである。(それはそうだわ。ジコチューの親が子供の心配をして自殺するはずがないわねえ。ジコチューの親はその関心が学校じゃなくて自分の子供に向かえば、むしろ子供の虐待とかネグレクトになったりするのだわ)

次に出現した怪物は、モンスターペイシエントである。(ペイシエントて、患者のことね。まあ、いろいろ自分中心に考えて要求するという意味ではモンスターペアレントとたぶん同じなのでしょうね)

救急車をタクシー代わりに使ったり、救急外来をコンビニと勘違いして、いつでも、どこでも安上がりで待たされずに診療できるのが当然だと思ったり(24時間営業するのが当たり前だ。人間はいつ熱を出したり、病気するか分からないのだから、て言うのよね)、治療が気に食わないからと医療費を払わなかったり、医者や看護師の態度が気に食わないとすぐに怒ったり、暴力を振るったり。(ひどいものはペイシエントハラスメントまでいくらしいわね。患者の暴力。それにしても・・・それにしてもなんでこんなにカタカナ語をたくさん使わないといけないのかしら。自分で使いながらあきれてしまう。慣れれば、「怪物両親」「怪物患者」でもいいのしょうけどね。)

もちろん世の中はウラとオモテ。モンスターティーチャーとか、モンスタードクターとか、モンスターナースもたぶんいるのだろう。いや、間違いなくいるのである。むしろこれまでは、暴力教師とか傲慢で隠蔽する医師とか、横柄な看護師とか、立場が強い方が威張っていたのだが、いまはこれまで立場が弱かった生徒(とその親)とか患者のほうが、強くなりモンスター化してしまったということであろう。立場の逆転。権利意識が義務の観念を凌駕した、ということだろうか。

現代の日本では、病院は治る場所でもあり、また一方では、間違いなく死ぬ場所でもあるのだ。(昔はともかく、現在は亡くなる人の80%は病院でなくなるという事実があるわね)

お産の時の母体死亡率が、世界中で一番少ない日本では、お産で母親が死ぬことはありえないと思われてしまった。母親が死んだとしたらそれは医療事故に違いないと。(ちなみに10万出生あたりの母体死亡率は、アフリカで830人、アジアで330人、ヨーロッパで24人、日本では5人くらいだといわれているようね。桁がちがうわ。ダントツだわ。)お産では死なないのが100%当然と思われてしまったため、たまたま難しい手術で不幸な転帰(死亡)をとった事例で、何と医師が過失致死罪で逮捕されたりもしているのだ。(福島県立大野病院事件。8月20日に無罪の判決がでた)。難しい手術をしてなくなったらすべて過

失致死罪にされるのであればもう医者手術そのものをしないであろう。

司法の世界でもモンスター検事とかモンスター裁判官は間違いなくいるし、よく世の中見渡せばモンスターだらけだ。(殺人者までがモンスター化してるわね。誰でもいいから殺したかったなんて！なんて自己中心主義なのかしら！殺される人のことよりも、とりあえず自分のことなんだわ。人は支えられ、支えあわないと生きていけないことを教わってこなかったのね。もしかしたら、そういうことをきちんと教えなかった方が悪いのかもしれないわね。)

私がいちばん恐れるのはモンスターたちの大きな声に負けて、現場が萎縮することである。それが教育の場であれ、医療の場であれ、もたらされる結果は医師や教師などの主体者が、「一生懸命踏み込むと損をする。自分が傷つく」ということを恐れるようになる、ということであるから、その結果として「深く係らない」「無理をしない、させない」「難しい手術はしない」「あえて冒険はしない」という萎縮教育、萎縮医療になってしまうであろうし、現実にもそうなりつつある。いや、もしかしたらもうどっぷり「萎縮」「無難」という言葉に漬かっているような気もするのである。

モンスターたちの出現でもっとも被害を受けるのは実は、普通の教育や普通の医療を受けたいと願っているながら、「萎縮教育」「萎縮医療」を与えられてしまう沈黙する多数の人々なのである。要するに一部のクレマー、モンスターのおかげで物言わぬみんなが困っているということだ。

萎縮教育や萎縮医療の害から子供達や病人を守るため、みんなで、ウルトラマンやウルトラマン太郎やウルトラセブンになって、世のモンスターどもに立ち向かい、こてんぱてんにやっつけたいものである。(そういえば、そういう類の女性キャラはいないのかしら。ウルトラリカちゃんとか……。でも、ウルトラの母がいるからいいか)

---

---

### 編集後記

---

---

ようやく朝夕は少し涼しさを感じるようになってきましたね。それにしても今年の夏は暑かった。こんなにエアコンを長く使用した夏はなかったような気がします。もっともこういう感覚は意外と当てにならなかつたりしますけどね。でも、ほんとうのホットな戦いはこれから始まりそうです。現場で医師が減るということは、病気になる人の数は変わりませんので、残っている医師に負担がかかるということになります。神経内科医と脳外科医それぞれの減員。残されたものにとっては、熱い秋になりそうな、そんな予感が……

(KT)